

植	物	
防	疫	
講	座	

## 病害編-48

果菜類に発生する *Botrytis cinerea* による  
灰色かび病三重県農業研究所 かわ川 かみ上 たく拓

## はじめに

灰色かび病（病原菌：*Botrytis cinerea* Persoon : Fries）は、果菜類、葉菜類、果樹類、花き類等の作物を侵す多犯性の重要病害である（図-1）。その宿主範囲は広く、世界中の温帯地域を中心に少なくとも 235 種の植物に感染して病気を引き起こすことが知られている（阿久津，2011）。本病害に関する報告は古くからあり，大正時代にはすでにブドウ，イチゴ，花き類等の病害としての記載がある（原，1925）。これまでに本病害の発生生態や防除法，さらには，長年の課題となっている耐性菌に関する報告が多数あり，様々な知見が集積している。

本稿では，施設栽培で広く発生する果菜類の灰色かび病の発生生態および防除法について概要を報告する。また，特に生産現場で問題となっている薬剤耐性灰色かび病菌に関連して，三重県における薬剤耐性菌の近年の発

生状況を中心とした情報を紹介するとともに，今後必要と考えられる耐性菌対策について述べる。

## I 灰色かび病の発生生態

本菌は，トマトやナス，イチゴ，キュウリ等の果菜類において，開花後の花卉や葉先枯部分等に感染し，果実や茎葉部への発病に寄与する。果実における発病に加え，トマトやナス等では茎においても発病し，株全体が枯死することもある。そのため，多発すると著しい減収に至る（図-2）。また本菌は，これらの被害部や老化した植物，他の有機物で腐生的に存在，繁殖する。さらに，菌核の形で地表や土壤中に存在し，越年して伝染源となる（岸 編，1998）。竹内・長井（1985）は，灰色かび病菌の分生胞子が施設内だけでなく，施設外でも飛散することを確認している。圃場内に存在する伝染源に加え，圃場外から本菌が侵入することもあることから，以下に

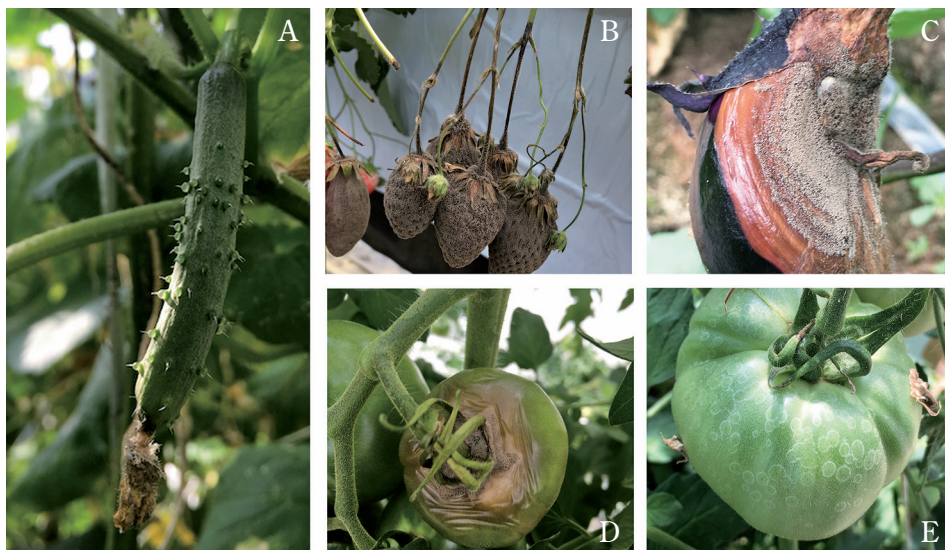


図-1 果菜類における灰色かび病

A：キュウリ，B：イチゴ，C：ナス，D：トマト，E：トマト（ゴーストスポット）。

Gray Mold caused by *Botrytis cinerea* on Fruit Vegetables. By Taku KAWAKAMI

（キーワード：灰色かび病，発生生態，防除，薬剤耐性菌）